

フィールド設定

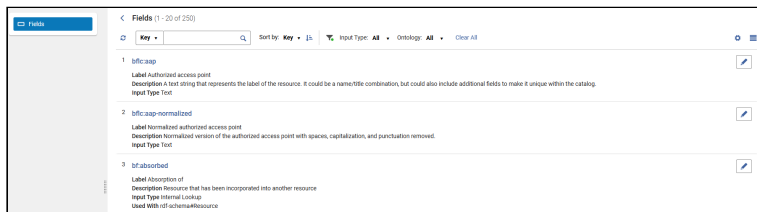
フィールドを設定するには、次の役割が必要です：

- 目録管理者

Alma LODエディタの各フィールドは、BIBFRAMEまたはBFLCオントロジーのプロパティ（および、場合によってはクラス）によって定義されます。

フィールドを表示および管理する方法：

1. 設定 > リソース > 目録作成 > メタデータ設定を選択します。
2. リンクデータ有効プロファイルのセクションから、プロファイルを選択します。フィールドリストが表示されます。



Note

フィールドページは、有効プロファイルのセクションからLC BF作品を選択した場合も、LC BFインスタンスを選択した場合も、同じページが表示されます。

フィールドの表示と管理

BIBFRAMEテンプレートの管理ページでは、利用できるすべてのフィールドの総合リストにアクセスできます。このリストには、BIBFRAMEおよびBFLCオントロジーのすべてのプロパティが記載されています。右側のペインで、各フィールドに関する次のコンテンツを表示できます：

- プロパティの**URI**
- ラベル（エディタのフィールド名として使用されます）
- **説明**（レコードまたはテンプレートを編集する際、



各フィールドまたはセクションの横にある情報アイコンによって表示されます）

- **使用対象**（ドメイン）
- **期待値**（範囲）

これらの詳細はオントロジーから直接取得され、目録作成者が正しいフィールドを使用できるようにします。

フィールド設定ページを表示するには、目録管理者としての役割が必要です。

フィールド動作設定

各フィールド設定には、次の2つの重要なチェックボックスがあります：

- 必須—レコードまたはテンプレートを保存する前に、このフィールドに入力する必要があります。必須フィールドは、その横に赤いアスタリスクが付いており、レコードの保存処理中に検証されます。

Note

検証はレコードにのみ適用され、テンプレートには適用されません。

- 繰り返し可能—フィールドの複数インスタンスを許可します。エディタの



フィールドの横に、簡単に複製できるようにプラスボタンが表示されます。

フィールドラベルと説明のカスタマイズ

必要に応じて、フィールド設定 ページで任意のプロパティのラベルと説明を編集できます。これにより、目録管理者は、表示テキストを機関の設定やワークフローに合わせてカスタマイズできるようになります。

Note

ラベルや説明を変更しても、プロパティの基盤となるURIには影響しません。RDF/XMLは、依然として定義された正しいプロパティを使用します。

入力タイプ

各フィールドに 入力タイプ を割り当てることができます。これにより、データの入力方法が決まります。Almaではデフォルトの入力タイプが用意されていますが、必要に応じてカスタマイズできます。利用できる入力タイプは次のとおりです：

- チェックボックス
- 日付—日付の定義形式：DD/MM/YYYY
- 外部ルックアップ—デフォルトの外部ソースを選択する必要があります
- 内部ルックアップ—Alma内の他のBIBFRAMEエンティティを検索および紐づけします
- ラベル
- テキスト—短い情報入力用
- テキストエリア—メモ、要約、目次などの長い情報入力用
- 語彙—リンクトデータの制御語彙から値を選択します。語彙を選択する必要があります。

語彙入力タイプ

語彙入力タイプを使用すると、目録作成者は、米国議会図書館リンクデータサービスが提供する 統制語彙 から値を選択できるようになります。これらの語彙は ラベルとURIの両方に対応しており、システム間の一貫性と相互運用性を確保します。

利用可能な語彙はフィールド設定内の関連プロパティと照合されるため、目録作成者は目録作成時に特定の語彙集から関連する値を検索できます。

例えば、エージェントに役割を割り当てる場合、300以上の標準化された役割リストから選択でき、各役割には固有のURIが割り当てられています。

詳細については、[米国議会図書館リンクトデータサービス](#)を参照してください。

外部ルックアップ入力タイプ

外部ルックアップ入力タイプは、そのプロパティをAlmaのリンクトデータルックアップサービスに紐づけます。このサービスは外部の信頼すべきソースを検索します（詳細は「外部ルックアップサービス」セクションを参照）。

- これを選択すると、デフォルトのルックアップソースを選択できる追加フィールドが表示されます。
- このドロップダウンには、現在サポートされているすべてのリンクトデータソース（LCSH、LC NAMES、ウィキデータなど）が含まれます。
- ユーザーがフィールドの値を選択していない場合、ルックアップサービスにはデフォルトソースが選択されます。
- フィールドに既に別のソースからの値が含まれている場合、既存の値のソースを使用してルックアップパネルが開くので、継続性を維持できます。

内部検索

内部ルックアップ入力タイプを使用すると、目録作成者はAlmaリポジトリ内で、特定のエンティティを別のエンティティにリンクできるようになります。

- これは、次のようなプロパティのデフォルト入力タイプです：
 - `bf:instanceOf`（インスタンスを作品にリンクする）
 - `bf:hasInstance`（作品をそのインスタンスにリンクする）
 - `bf:relatedTo`そのすべてのサブプロパティ
- これらを使用すると、目録作成中にスライド式パネルが開くため、ユーザーは以下の検索が可能になります：
 - 関連するインスタンスを探す、すべてのタイトル検索
 - 関連する作品を探す、作品検索
- タイトルが選択されると、Almaは選択されたエンティティのラベルとURIの両方を現在のレコードに追加します。

Note

内部ルックアップは現在、BIBFRAMEレコード間のリンクにのみ対応しています。現時点では、BIBFRAMEとMARCレコード間のリンクには対応していません。

ルックアップおよび語彙に関する詳細については、[Almaルックアップサービス](#)を参照してください。